

レコード 軽術

秋

No. 32
2003

特集 平壤歌劇団来日公演



11月9日 われらの「運命」はこう決まる

音楽祭への演奏公約です

ベートーヴェン交響曲第五番「運命」演奏時間

第一楽章 8' 10" $\pm$ 20"

第二楽章 10' 07" $\pm$ 30"

第三楽章 5' 00" $\pm$ 20"

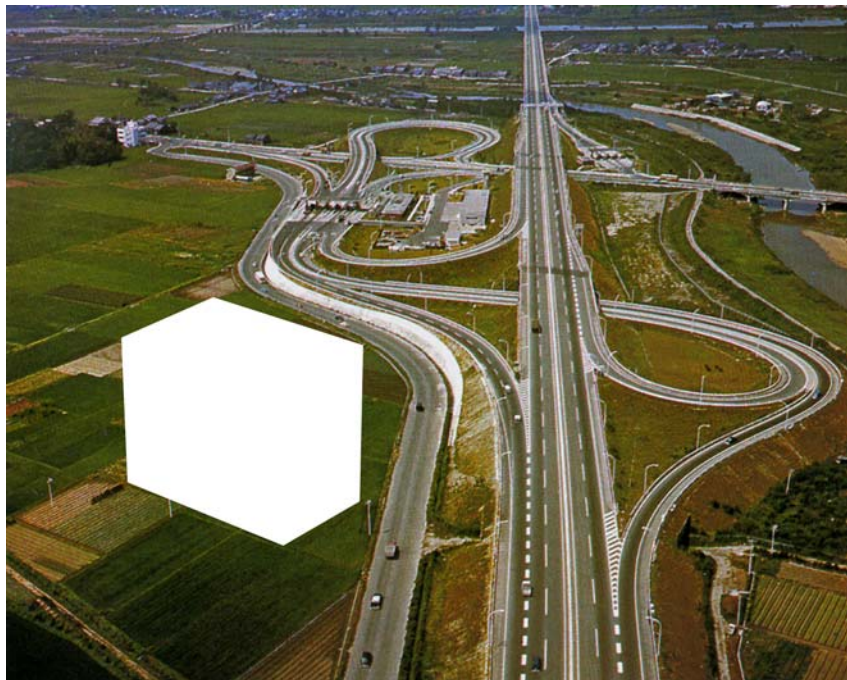
第四楽章 10' 13" $\pm$ 30"



小沢 政治 指揮 マニフェスティバル管弦楽団

3年に一度の音楽祭、お聴き逃さぬよう！

前道路公団総裁・藤井氏就任記念事業



すべてのインターチェンジのそばに音楽ホールを



建設事業は日本がある限り続けましょう

日本箱もの公団

ワーグナー 《さまよえるオランダ人》



ワーグナー 歌劇「さまよえるオランダ人」
来日公演 金商日指揮 平壤歌劇団

石原辛太郎（談）

この程度のオペラに金払う奴バカじゃなか
ろかというのがオレの感想だね。舞台装置を
見ろよ、あれが幽霊船のつもりだとはお笑い
だ。音楽がわからなくても目が見えればバカ
でもわかるよ、醜悪を通り越して気持ち悪く
なるな。舳先に付いているの、フィギア・ヘッ
ドといったつけ、船の守り神かなんか知らな
いが、あんな腹の出たオッさんをあがめる連
中もいるんだなあ、理解しかねるよ。

歌手たちについては、もう語るに落ちると
いうか、ヒロインのゼンタからしてまともに
声が出てないじゃないか。オレ経歴は知らな

いけれど、どう見ても若くない。ババアなんか
に歌わせるんじゃないよ、まったく。

そもそも、こんな団体を招聘したこと自体が間違っている。こんなものを喜ぶほど日本人はバカじゃないよ。外貨がほしい連中の口車に乗せられたのかもしれないが、国辱ものだね。田中某とかいったな、勝手にこんな団体と接触し、業績を上げたと得意になっているのだろうか、奴らに金を払うのは日本人だ。田中は呼び屋のクズだ、万死に値する。

それから、歌劇場に行ってみればわかるけれど、おかしい応援団みたいなのがいるのが気に食わない。山場が終わったときなどで拍手が少ないときにやたら騒ぎ出す。すぐサクラだとわかる。連中もやるもんだ、最初から出来のよいものでないことわかつ

ているのさ。こんなものを上演するような劇場は火を付けられて当然だね。



新譜月評

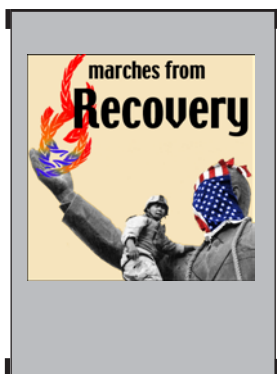
管弦楽曲

藤田由々

新譜月評 The Record Keijutsu 管弦楽曲

■ブラスの響き（復興へのマーチ）

ウラムズデルヘッド指揮
バグダッド交響楽団有志



アメリカとイギリスのよく知られた行進曲をまとめた吹奏楽集である。CDの売り上げの一部はイラク復興に役立てられる。一連のシリーズの第一回発売である。演奏団体にはイラクの名前が付いているが、まだ復興途上の国情ゆえ、米英の軍楽隊から選ばれた奏者が多く参加している。技術レベルも高く安心して聴くことが出来る。

だが、このCDを買う前に考えていたきた。そもそも、戦争を始めなかったらこのCDの必要はなかったではないか。百歩譲って始めたのは仕方ないとしても、戦後処理がうまく行っていればCDを売って資金を集めることもなかっただろう。他人

に後始末を頼るようになったことに何のた
めらいもないのだろうか。

無理な理屈を付けて始めた戦争だ。ジャ
ケットには国連のマークを連想させるよう
な絵柄が入っているが、勝手に結びつけら
れて困惑しているのは国連ではあるまいか。
念のため補足しておくが、CDの売り上げ
は一切国連には行かない。

選曲が問題だ。現地の演奏家の事情はは
じめにも述べたとおりだが、米英の軍隊を
鼓舞させるようなものばかりだ。「士官候補
生」に始まり、「アメリカ空軍」、「海兵隊賛
歌」と来て、「忠誠」、「海を越える握手」、「自

由の鐘」、「アメリカン・パトロール」と並
ぶとこの春からの一連の流れを思いだす。
最後に「星条旗は永遠なれ」となつては占
領軍のための音楽そのものだ。

要するに、自国文化中心の世界観揺るが
ずということである。レバトリを広げる
という意欲のなさがそのまま米英のイラク
の戦後処理の姿勢に現れてはいまいか。

このシリーズのCDの発売がやがて次の
戦争資金募集のための手段に化すことがな
いよう祈っている。

「録音評」 バグダッド市内のモスクでの収録。残響は十分だが金管楽器にはそぐわない。余韻に違和
感が残る。建物の外から来ていると思われるノイズがある。徐々に大きくなるのが気にかかる。よく
録音が中断されなかったと思うほど。

新譜月評

協奏曲

歌咲風邪彦

新譜月評 The Record Keijutsu 協奏曲

■ シューマン…チエロ協奏曲イ短調

星野千一（VC） 難波虎吉指揮
大阪セントラルフィル



星野は大阪出身のチエリスト。昨年から少しづつ注目されるようになったが、地元の人気ぶりと比較して全国的には知名度は今ひとつ。今回のCDの発売は星野を知らしめる起爆剤となるかもしれない。

活き活きとしたシューマンである。といつて浅薄ではない。沈潜する纏綿とした情感が全体に歌い込まれている。それを支えているのは余裕のあるテクニク。評者が東京で聴いた実演よりもさらに闊達な表現となっている。

しかし、シューマンをこのように解釈するのかといぶかる面々も多いかもしれない。悪くいえばしつこく、けばけばしい。演歌

調とまで行かぬも、くせのある独特の節回し。ひとことでいえば関西訛りのシューマンといったらよいか。里帰り公演のライヴとあつて一層その表現が強くなったのかもしれない。地元のファンの熱気が伝わってくる。

好きな演奏家としてだれを選ぼうと個人の自由だが、出身地のファンだけに理解されるだけでいいのだろうか。いや、芸術というものはもともとローカルなものであつて、その中に普遍性があるからこそ多くの人に知られていくのに違いないとか、いろいろなことを考えさせる。

「録音評」 ソロが異様にクローズアップされている。LP初期までは見受けられたソリスト重視の音の録り方だ。ソロ楽器ばかりを聴くためにCDを買ったのではないと関西以外では苦情が出るかもしれない。熱演ぶり自体はよく捕らえられているだけに惜しい。

アンコールとして演奏された「インドのトラ狩り」で会場の熱気は頂点に達する。場内アナウンスの制止を無視して花束を手にステージに登るファンたちの足音もはつきりと収録されている。確かステージからひとり転落して足を捻挫したファンが出たのはこのときではあるまいか。ほかの地域では考えられないフィーバーぶりだ。

低迷がささやかれている関西クラシック音楽上に光明の一枚とはいえそうだ。年季の入った音楽ファン（特に首都圏の）も偏見抜きで耳にしてほしい。

新譜月評

オペラ

國土潤金

新譜月評 The Record Keijutsu オペラ

■ヨハン・シュトラウス…喜歌劇《こうもり》

小泉詭一郎(T) 野中雜務(Br) 田中
薪子(S) ほか 小泉変一郎指揮永田
町管弦楽団・合唱団



第二幕のパーティの場がすばらしい。アイゼンシュタイン（小泉詭一郎）の前にいろいろな人物が挨拶にやってくる。いずれも表向きは彼の支持者であるような顔をしているが、実情は身分を隠しての茶番劇。

このパーティはこうもり博士と呼ばれているアイゼンシュタインの旧友ファルケ（野中雜務）が仕組んでいる。ファルケは昔あるパーティでこうもりの仮装をしたまま恥ずかしい思いをされたことがあるので、仕返しの機会をねらっていた。このパーティは「こうもりの復讐」なのだ。

アイゼンシュタインはそうとは知らず自慢の懷中時計をちらつかせて女性たちの気

を引こうと躍起になる。時計を渡そうとして渡さないところが彼のうまいところだったが、仮面を付けた妻ロザリンデ（田中薪子）にまんまと取られてしまう。これもファルケのお膳立て通り。

そんなやりとりをすべてお見通しの上醒めた目で見てるのが若きプリンスのオルロフスキー公（安部珍三）。時折「ダッタン人は毒には手を出さない」などとわけのわからないことをいいつつ高みの見物をしている。どこか飄々としたところがうまい。

小間使い役ながら拔擢されてパーティに呼ばれたアデーレ（濃毛百合子）も好演。も

「録音評」この団体の録音は右寄りに混濁するのが常だったが、オペラ録音は意外によい。作爲的なクローズアップはなされているが、そうと割り切って聴けば不自然ではない。深みはないが新鮮さは感じられる。

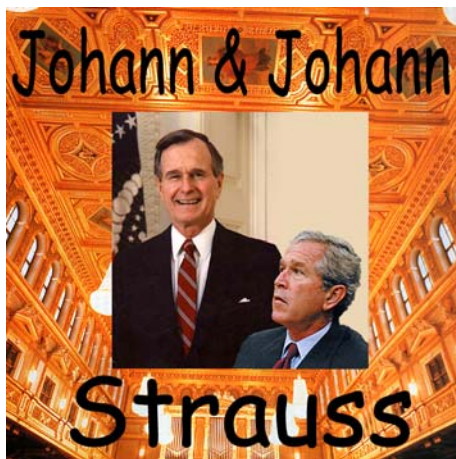
う少し若ければと思うのは贅沢な望みか。

ひととき存在感のあるのが野中演じるファルケ。アイゼンシュタインに比べて出番は少ないが、さすがベテラン。陰の音楽監督とささやかれたというのも納得できる。老獪ともいえる迫力だ。一線から退くのは惜しい。

表面的には美しく楽しいメロディーにあふれているこの喜歌劇、裏は化かし合いと陰謀が渦巻く社会の縮図なのである。なのに後味がよいのは音楽のすばらしさか。今回のようなキャストは滅多に揃うものではない。思いがけない名盤の出現だ。

ヨハン・シュトラウス名曲集

さすが親子？



どっちもどっち？

収録曲目（順不同）

ヴィクトリア・ワルツ／小鳩のワルツ／恋人のワルツ／ア
ンネン・ポルカ／好かれるアンネン／春の声／宮廷舞踏会
ウィーン気質／ウィーン情緒／雷鳴と電光／パリ／インド
人／ドイツ人／ハプスブルク万歳／ラデツキー行進曲

CDを聴いて父と子の作品を区別して下さい。正しくトラック番号を分類し
た方の中から抽選で3名様を2004年ニューイヤー・コンサートへご招待

BSE

BUSH & SON ENTERTAINMENT

ぼくら・名盤探偵団



マーラーの交響曲でフルトヴェングラー指揮の録音がみつからないからといって、フルトヴェングラーがいなかったことにならないでしょう？

あきらめては駄目、捜し物は私たちプロ集団にお任せ下さい。

MAK.INC

ミュージック・アーカイブ・リサーチ

名演の録音の所在や楽譜、書簡など何でも捜します。大量破壊兵器の調査はしません。証拠書類のねつ造に関与はお断り。

付録に付いてくるCDをあなたはどのようにしてますか？
増える一方の不要CDは地球環境をおびやかします。

燃焼実験に成功！



CDリサイクルを行っているオントモグループに強力な
助っ人登場。北海道苫小牧市の工場で連続44時間の燃焼
実験に成功。大幅な処理能力の向上が期待されます。



出火

オントモグループ参入決定
出火興産株式会社

雑誌付録など、不要CD 5枚をお送り下さい。ご希望のCDが選べます。

CD引換券

有効期限 2003.10.1

オントモグループ

オントモ燃処理（株）

編集後記

春号に比べ秋号は発行前に夏があることだし、軽く楽しい話題を多く取り上げたいなと思っているのですが、なかなかうまく行きません。凶悪事件と情けなくなるような人災ばかり目に付きました。今回はちょっと苦勞した号に入るかもしれません。

パロディを作りやすい年がいい年とは限りませんが。

バックナンバーのハイライトおよび本誌発行に絡むエピソードなどは <http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa> で見ることができます。

レコード軽術 2003年秋号（通巻第32号）

2003.10.15 第1刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@m2.ocv.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp（パプロ小川）

印刷・製本 家内工業

hiroko-y@m2.ocv.ne.jp

